

## Mendocinoへ向けて



5月23日午前6時、9回目となるメンドシーノ訪問団は、美麻小中学校に集合した。見送りに来た家族や関係者100人を前に出発式を行い、吉澤実行委員長、牛越団長のあいさつに続き、児童代表の桑山由大君が「この旅では、色々な経験ができます。ホストファミリーに話しか

けて仲良くなりましょう。8日間楽しみましょう。」と声をかけ、児童を代表して小山悠太君が「行ってきます」と元気にあいさつをした。6時30分：訪問団はバスに乗り込みメンドシーノへ向けて、一路、成田空港を目指し出発した。

### 牛越団長、訪問団を

## レッドパーカーと命名！

車内のあいさつで、牛越団長は「赤いパーカーを着るのは、目立つという意味もありますが、もっと大事な役割があります。みんなの気持ちをひとつにしているのです。気持ちをひとつにして、無事に帰ってきましょう。そこで、訪問団の名前をレッドパーカーと名づけたいと思います。いかがでしょうか。」と提案すると車内から歓声があがった。



### 余裕を持った移動で

## 予定通り空港に到着。

バスは、中央自動車道豊科ICから途中、3回の休憩(梓川、双葉、談合坂)と酒々井SAでの昼食後、予定どおり13:30に成田空港へ到着。

出発が早かった分、車中で休憩をとることもできた。また、屋外での昼食は気分転換にもなるので、天気が良ければオススメ。また、昼食後には、児童の企画による『日本にさよならの会』が開催され、突然マイクをふられた引率者が、心の準備ができずアタフタする場面もあった。しおりに載らないゲリラ的な催しが何回か計画されているらしい。

# 訪問団が 出発

## 引率者役割分担が明確に

行程の場面ごとに、引率者は役割分担して児童の安全確保に努めることとした。サービスエリアでの乗降時は、引率者がポイントに立っての交通安全の確保、忘れ物の点検など打ち合わせどおりに実施された。行きのバスでは忘れ物があったが、全行程での忘れ物はこの1件のみでした。



安全確保のため  
大人が誘導(梓川SAにて)

## セキュリティチェック前の 手荷物確認は入念に!!

セキュリティチェックは、児童も引率者も個々に通過しなければなりません。飛行機内に持ち込めない

- ・刃物類 (文房具のハサミなど含)
  - ・液体類 (封の空いたペットボトルや歯磨きのチューブなども含む) など、チェックイン前に再度確認を!
- (今回はハサミが1つありました)

また、X線の検査では、スーツケースの中身を聞かれることもあるので、人の荷物を預かる時は、中身の確認を!



## パスポートの管理 について検討しよう

以前は旅行会社の仕事だったパスポートの保管も訪問団で行うことになりました。今回は、児童のパスポートを行動班の大人が機内で回収し、入国前に航空チケットや通関書類を組み入れて空港で配布しました。

作業も煩雑になるため、首から下げるフォルダーで個々に持つなど、方法を検討してはいかがでしょうか。



- ◇ 出国審査前にパスポートに搭乗券を挟む
- ◇ 出国審査カウンターへは一人ずつ
- ◇ 名前はローマ字なので間違えないように
- ◇ 搭乗券を落とさないよう注意が必要



# メンドシーノといえば レッド・ウッド



メンドシーノの町に入る前、必ず立ち寄るポールティミック州立公園は、メンドシーノの象徴のひとつ、レッドウッドの森の中にあります。

子ども達は、全員が登れるほど大きな切り株に登って、アメリカ大陸のスケールの大きさを実感したようです。



レッドウッドは、世界一高い木として知られ、丈夫なことから建材としての利用価値が高く、メンドシーノは、レッドウッドの製材や積み出しにより拓かれた町です。

## 峠越えは車酔いに注意



サンタ・ローザを出発すると、峠越えの山道に入ります。車酔いが心配な人は、酔い止めの薬を飲んでからバスに乗るとよいでしょう。

驚かされるのは、バスのスピードです。速度計は、**55mph (約90km/h)**を指していますが、道路が広いので

4 山道も意外と安心です。



## 森に潜む恐怖

### ポイズン・オーク

ただの草に見えますが、**触ると大変なことになる**てしまう。

その名もポイズン・オーク。日本でいえばウルシのように、ヒドイかぶれをおこします。アメリカ大陸には広く（カナダ西部～メキシコ）分布しており、いたるところに生えています。



レッドウッド公園内で撮影

**対策：やたら草には触らない！**



訪問団メンドシーノに到着！

23日夕方、訪問団は、フォート・ブラッグに到着した。宿泊するスーパー8モーターの前には大勢の人達が集まり、訪問団を出迎えた。バスを降りると友人との再会を喜び合う姿も見られた。訪問団を代表して、6年生の高木玲二君が「**迎えてくれてありがとうございます。8日間よろしくお願ひします**」とあいさつすると、ボランティアグループ代表のマイクさんも「よろしくお願ひします」と日本語で答えました。

## ウサ

# 噂の巨大ピザ！

(ラウンドテーブルピザで夕食)

夕食は、子ども達に語り継がれている噂の巨大ピザを食べに、スーパー8モーターから歩いて1分の場所にあるラウンドテーブル・ピザへ。

大きな皿で出てくるアメリカンサイズのピザに歓声があがります。

緯度の高いメンドシーノは、午後7時を過ぎても明るく、太平洋に沈む夕日を見ながら、楽しいひと時を過ごしました。

モーターに帰る途中、クラクションを鳴らし手を振って走っていく車が何台もあります。メンドシーノ人達は、みんな訪問団が来たことを知っていました。明日は、いよいよメンドシーノの町に入ります。





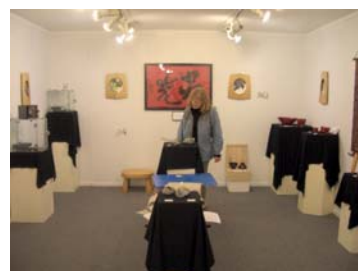


## アートな町 Mendocino

**アートセンター見学** 芝生の中には、ユーモラスな形をした鉄製の野外彫刻があちこちに配置され、親しみを感じさせてくれます。館内は、とても明るい雰囲気、絵画や彫金、彫刻、木工作品など多数の作品がところ狭しと飾られていました。



アート実習として、貼り絵を制作したり、初めて開催された行われた「大町MIASA Mendocino・アート&クラフトショー」も見学しました。



なんと不思議な空間がありました。品のよいおばあさんが、ウサギを抱きかかえ、毛を抜いて糸を紡いでいるのです。アンゴラウサギと言うようですが、毛を抜かれても痛そうなおうすはありません。一人一本ずつ糸をお土産にいただきました。



4泊のホームステイが始まります。

## 平和友好記念碑

“海を越えて” そこにあるもの



帰りには、漁から上がってきたばかりの方から、大きなアワビを見せていただき、みんなビックリ。アメリカは、全てがビックサイズです。



アバロニ・ハンターと呼ばれる人達の獲ったアワビを見せてもらいました。

ミドルスクールの図書館にリュックを置かせていただいた後、黄色いスクールバスに乗り、ヘッドランド州立公園内にある岬の先端に移動です。広々とした草原の先に、平和友好記念碑が、ポツンとありました。碑の背側は、確かに太平洋を臨みはるか日本に向けられていました。

これは、日本に敬意を表する形からだそうです。こんなすてきな場所に建てられているなんて感激です。

潮風がけっこう冷たかったのですが、みんなニコニコ笑顔で記念写真に納まりました。

平和友好記念碑は、Mendocinoの岬にあるヘッドランド州立公園内に1982年7月4日に建立されました。自然保護のため、人工建造物設置が許されない公園内で、唯一設置されているのが“美麻との友好記念碑”なのです。交流事業に寄せるMendocinoの人達の思いが感じられます。



## ホストファミリーと対面 ビックリバー・ビーチ

ビックリバー・ビーチへの道端には、ポインズンオークがあったりしてちょっと気をつけなければならない。海辺へ下ると大きなレッドウッドが横たわり子供たちが思わずよじ登って大集合。

毎回ビックリバー・ビーチでの昼食はMendocinoのボランティアのたちの手作り料理が並び、料理を食べおわると子ども達はMendocinoの子ども達とサッカーやフリスビー、水遊びを始める。



「はじめまして、ボクの名前は...」



# 美麻ブルーハッピーズ

# 大活躍!



## 歓迎ディナーでの太鼓発表

歓迎ディナーで、練習を重ねてきた太鼓を発表しました。

会場が、今か今かと演奏を待ちわびる中、青いハッピに身を包んだ美麻ブルーハッピーズが登場すると、

**ドン! ドン!! ドン!!!**

勇壮な太鼓が身体に響きます。

**ドン! ドン!! ドン!!**

どんどん太鼓の音が大きく鳴ります。

**カン! カン! カン!**

種山諒子さんの鉄筒がリズムを刻みます。

**ソーレ! ソーレ!**

美麻ブルーハッピーズがバチを持って跳ねて、キュートに踊ります。クライマックスが近づき、息を飲むメンドシーノの方々。

**ドン!! ドン!! … ドン!!**

**「祭り」「源流あばれ打ち」**

美麻ブルーハッピーズ渾身の太鼓2曲が終わりました。

演奏後、万雷の拍手とともに

**オールスタンディング  
オベーション!!**

場内が感動に包まれます。

その視線の中の晴れやかな顔。

## 歓迎ディナー&セレモニーの様子



セレモニーには、約200人が集まっていたと思う。子供達は各々のホームステイ先の家族と一緒に席に座っていた。セレモニーは、メンドシーノ代表のマイクさんの司会で進められ、スピーチ、プレゼント交換、アトラクションという流れで進められた。美麻の子供達はリコーダーの「ふるさと」と英語の歌「Take Me Out To The Ballgame」、太鼓を披露した。子供達は緊張した面持ちだったが、発表が始まると堂々としたもので、本当に楽しそうに歌っていた。太鼓を叩く真剣な眼差しに圧倒され、場内が湧き上がった。

その後のアカペラ合唱団のすばらしいこと! 男の人達だけなのにとても美しくやさしい



歌声だった。食事はバイキング方式で前に美麻を訪問した子供たちがついてくれた。食事に花を添えてくれたのがシャロンさんの手作りケーキだ。あの大きさとゴージャスさと甘さはアメリカならでは。ケーキは四種類もあって大人気だった。出し物はどれも見応えのあるものばかりで、チキンやケーキを頬張りながら楽しんでいるうちにあっという間に終焉の時間が来ていた。(松下)



## 最初の試練は突然に

～歓迎ディナーのセレモニーにて～  
ノリの良さとお祭ムードに圧倒されるようにして始まった歓迎会。気軽に楽しめるはずだったのに、プレゼントを手渡すなんて聞いてないし、しかもスピーチつきなんて・・・突然言わないでほしいわけ。時間が進むにつれて高まる不安・・・。

持参した‘てるてる坊主’を渡す時の手は震えているし、マイクの前へリードされた途端、考えていたはずのフレーズはとんでいるし、皆の視線がこっちを向いている(当たり前)。それでも気が付いたら笑い声が聞こえてる。どうやら、晴れを願う人形を逆さにつるしたら雨が降るという事実の対比がおかしかっただけらしいけど。お陰で私は一気に楽になった。英語の小林先生にほめてもらったひと言も私的にはかなり高ポイントゲット!



その後はゆっくりパフォーマンスも楽しめたとし、食事デザートもしっかり堪能できて本当の歓迎会の中に浸れました。とりあえずはヤレヤレ。(佐藤)





学校交流会で

和太鼓の披露

今回のメインは、何といっても太鼓の演奏です。迫力ある演奏に会場からは大きな歓声が上がります。演奏終了後、マイクさんの「一緒に太鼓を叩いてみたい人は手あげて」というと、会場から一斉に手が上がり「自分を指名して」とアピールしています。しかも、参加できなかった子達も、いっこうにその手を下ろそうとしません。

太鼓を貸してくれたムイさんの指導で練習がはじまると、最初は不ぞろいな音も徐々に合いはじめ、体育館中に響き渡りました。来年の訪問時には、メンドシーノ訪問団による太鼓の演奏が実現するかもしれません。



ミドルスクールの歌の発表

校庭でフィールド・ゲーム

美麻とメンドシーノの混合チームでリレーをしました。三角コーンのまわりをぐるぐる回って走ったり、風船をお尻で割ったり、いろいろな種目の入ったリレーです。美麻の子も達が走る番になると、

「Miasa! Miasa!」

の大きな声援が送られました。二人三脚は、大きな袋に片足ずつを入れて。初めて会った友達とも息びった

りて元気に走り回りました。なかには、大きなお兄さんが美麻の子を抱き上げて走る場面もありました。最後は、美麻の子ども達とメンドシーノの子ども達が向かい合い、水風船を投げてキャッチするゲーム。

段々と二人の距離を広げていくに従って、キャッチできずに水風船を割ってしまうペアが続出。それでも最後まで風船を割らずにいたペアは、ハイタッチしたり抱き合ったりして喜び合いました。



授業に参加

ミドルスクールでは班ごとに各教室を見学し、いっしょに授業をしました。美術の教室ではカラフルな版画に挑戦。何色も用意されたインクを、ローラーをつかって

思いのままにアクリルボードに塗っていきます。インクを塗ったボードに紙をあて、ばれんでこすって完成。夢中で作り続け、にぎやかな楽しい作品が何枚もできあがりました。そして完成作品は後日学校へ送られてきました。「あっ、あの時の版画だ!」と大喜びの子ども達でした。



ほかの教室では、折り紙をいっしょに折ったり、漢字を書いてみせてあげたり。子ども達同士、自然と会話が生まれていました。その時に仲良くなった子と帰国後手紙をやり取りしているよ、なんてつながりも生まれています。



メンドシーノでのお買い物



メンドシーノの綺麗な町並みの中には、すてきなお店がたくさんあります。

おもちゃさん、本屋さん、お菓子屋さん、雑貨屋さん、金属店・・・目移りしてしまいそうです。誰もが、「なににしようかな」と、真剣なまなざしで、商品を見入っていました。そして、街中を何週も何週もしながら、買い物を楽しんでいました。

最後は、ハーベストマーケットで、アイスをご馳走になりました。お土産もでき、とっても美味しいアイスを食べ、みんな最高の笑顔でした。



2007年に美麻を訪問した子ども達が、買い物の案内をしてくれます。